

インプラント特別講演会のお知らせ

(主催 Study Group 『Triangle』 共催 株式会社アルタデント)

講師紹介

Dr. Stephan Beuer

(1977 Year of Birth in Bavaria/Germany)



HIGHER EDUCATION

1997 – 2003: Dental School in Regensburg/Germany

April 2006 : Dissertation in Periodontology at University of Regensburg
in Cooperation with Prof. Dr. Michael Christgau

November 2009: Master of Science (M.Sc.), postgraduate Education in Krems/Austria

PROFESSIONAL AGENCY

September 2003 – June 2005: General Dentist Residency in Private Practice

July 2005 – Dezember 2009: Oral Surgery training in Clinics for Oral and Maxillofacial Surgery in
Passau/Germany

Dezember 2006: Specialist in Implantology (DGI)

Februar 2010: Founder of „Praxisklinik Münchnerau“ (Clinics for oral surgery) in Landshut/Germany

過去において歯科インプラントはさまざまな治療のオプションとして大きな話題を提供してきました。たとえインプラント治療によってあらゆる問題を解決することは不可能であるとしても我々はより複雑な症例を治療することに挑戦しつづけるべきではありません。患者の審美的要求により我々は患者の口腔の自然な状態の再建、つまり硬軟組織の再建に注力せざるを得ないわけです。口腔外科医としてもっとも重要なゴールは、患者の病的状態を緩和し、オペ時間を短縮し長期の安定性を確保することです。

今回の講演では硬軟組織のオーグメンテーション、特にブロック骨のオーグメンテーションや口腔外科領域におけるCAD/CAMテクノロジーとトンネルテクニックのコンビネーションによる新しい可能性などに焦点をあてます。さらにサイナスリフト、ボーンスプリット、遊離歯肉と結合組織を使用したグラフトについても議論いたします。

またコンピューター支援によるコーンビームCTのような新しい技術も患者の解剖学的診断や外科手技のプランニングに対して特別な機会をもたらしてくれました。埋入されたインプラントにとってインプラント周囲炎は現在、また将来においても大きな問題となる可能性があります。それゆえに我々はできるだけうまくこの種の問題を避けるための治療コンセプトを発展させる必要があります。

今回は私たちが普段治療のオプションとして行っているこうした様々な技法を臨床例を交えて概説致します。

開催日時 平成 22 年 11 月 6 日 (土) 14 時 ~ 17 時

参加費 無料

会場 モリタ歯科医院 研修室 (滋賀県守山市吉身 3 丁目 1 - 1 2 - 1)

参加 不参加

御名前

* 大変お手数ではございますが、出欠の旨を **9月29日(水)**までに FAX にてお知らせ下さい
モリタ歯科医院 森田 潤 (担当: 中村) FAX **077-582-8140**